



### 中国がわかるシリーズ 31 宋の建国(後)

ライフネット生命保険株式会社  
代表取締役会長兼 CEO、出口 治明氏

ところで、科挙のような先進的な人材登用制度が確立したのは、太宗が、例えば同時代のオットー大帝より優れた資質を有していたからでしょうか。それも若干はあるかも知れませんが、科挙を実現するためには、まず、勉学に供する教材が広く全国に行き渡っていなければなりません（勿論、一般の個人が大量の書籍を購入することは不可能でした。科挙に必要とされる經典類は、各地の役所—官立図書館としての廟学や書院、に常備され、受験生が、筆写したのです）。即ち、その国の印刷、出版産業のレベルが問題となります。

宋は、このような社会のインフラ部分でも、当時の世界の最先進国であったのです。版木(横幅)の制約は、今で云う A4 や B5 を片面とする胡蝶綴じを生み出しましたが、これは、読書に革命をもたらしました。巻物とは異なり、(葉で)いつでも必要な箇所を参照出来るようになったからです。

ヨーロッパで、仮に、科挙を実施しようと思えば、最低、500 年は待たなくてはならなかったでしょう。唐末の印刷術の発明による情報革命が、新たな時代を現出したのです。これは、中国史上、紙の発明に次ぐ、大きな時代の転機でした。

因みに、印刷技術を最初に利用したのは、經典を印刷し宣教に活用した仏教教団でした。太宗の時代、国家の補助を得て、大蔵經(仏教經典・教義書の全集)が刊行されています。ともあれ、始皇帝のグランドデザインによる中華帝国は、宋の太宗によって、より近代的に再構成されたのです。